

6 年 2 組

自然のものでものづくりをしたい
～「0」からつくるマイスプーン～



自然のものをつかってつくりたい

今年度のテーマを考えるにあたり、昨年度の総合で学んだことをふりかえりました。草木染を通して、草木染職人の林部さんに出会い、その出会いから伝統工芸品をつくる職人さんの工夫やすごさを学びました。また、自分たちで試行錯誤して染色液をつくった経験やつくった染色液の色を比較したことが楽しかったとふりかえりました。

そのふりかえりを経て、今年の総合でやってみたいことを考えていくと、Aさんが「自然のもので何かつくりたい」と言いました。Bさんは「日本ならではのものがつくりたいな」と昨年のことをつなげて意見を出しました。

子どもたちにアイデアを書きだしてもらおうと「木で食器をつくりたい」というアイデアがあったため、木を中心に考えてみました。まず、木という素材から観察しました。鉋で木を削り、においや質感を確かめました。数種類の木を削り、色やにおいの違いも確かめてみました。「どんな木でつくろうか」そんな期待がふくらんだ時間になりました。

また、ちょうど枝打ちをした学校の木がたくさんありました。木材となりそうな木がたくさんあったため、使えそうなものを集めることにしました。この木が使えるのではないかと探しながら、いろいろな太さの木を集めました。中には大きな丸太もあり、協力して運びました。自分たちと共に成長してきた木を使う楽しみが生まれてきました。



どんなスプーンにしようかな

「お皿をつくりたい」「コップをつくりたい」など、つくりたいものはいろいろありましたが、まずは試しにスプーンから作りはじめました。「深めのスプーンがほしい」と深く、深く、掘り進めるCさん。「つるつるな面にしたい」とやすりを何度も何度もかけるDさん。自分の思い描くスプーンをめざして試行錯誤がはじまりました。



彫刻刀をつかって掘っていきました。丸刀や平刀、切り出しをつかって少しずつ削っていきました。どの彫刻刀がいいのか、考えながら掘り進めました。しかし、なかなか掘り進めることができません。大きく削りたいところは電動糸鋸を使ってカットしていきました。柄の太さを調節したり、柄を波打つようにしたり工夫が見られました。

難しい作業は教師がしましたが、自ら挑戦していたEさん。Eさんはすべて一人でカットしました。Eさんは「スプーンの形がある程度あったからできたけど、木の板からこれ全部をつくるのですごく大変だよ。木でつくってる職人さんはすごいよ」と、やってみたからわかったウッドクラフトの難しさを語りました。

一方、Fさんはスプーンのくぼみを彫るのに動画で見た彫り方を参考に、両手で体重をかけて彫る方法を見つけました。少しずつ、少しずつ形になっていくスプーンに期待がさらに高まっていきました。「学校だけの時間だけでは足りない、早く仕上げたい」と家で製作をしてくる子どもも何人も出てきました。



こんなやり方もあるんだな

スプーンのスプをすくう面はできてきたものの、一番の難所はその反対面でした。くぼんでいる面より、曲面を削る方が難しかったのです。なかなか彫り進めることができない中、いろいろな方法が考案されていきました。やすりで削った方がやりやすいと考えたGさんは、やすりを机に固定して削り始めました。鉋でちょっとずつ削る方法を選んだHさんもありました。「ここをもっと削りたいんだけどな」そんな声が、いたるところで聞こえてきました。なかなか思うようには進みません。そんな中、塗装の段階に入れる子が出てきました。そのスプーンを見るとつるつるの面、すべすべの触り心地でした。Iさんは、自分のスプーンと比べ、「私のはまだ凸凹なのに、こんなになめらかだよ。触るとすべすべ。どうしたらこんなになるの?」と尋ねていました。塗装に入るJさんは「円を書いてちょっとずつ削ったんだ」と教えてくれました。

塗装で参考にしたのは、木曽漆器のスプーンと、びんずる市でみつけた木製スプーンです。色のついた木曽漆器のスプーンは赤と黒。木製スプーンは木の色や木目が残ったスプーンです。まずは蜜ろうをつかって木目を残す塗装を始めた子どもがいました。何度も塗り重ねて深い色になるように、根気よく塗っていきます。どんなスプーンになっていくのか楽しみです。

